自由民主党

世田谷区議会議員 和田ひでとし 通信

区政レポート

令和七年一月発行

第三十五号



今年も私の母校東玉川小学校の２年生が、いろいろな仕事を調べる学習として、地元のお店や事業所を訪ねる授業があり、我が和田工房へも訪問してくれました。

今年こそ穏やかな年であってほしいと願いつつ、令和七年の新たな年を迎えました。

昨年元日の能登半島地震からの震災復興半ばの九月、記録的豪雨によって再び大きな被害をもたらしました。いくら自然災害とはいえ、被災地の皆さんはどのように新年を迎えたでしょうか。一日も早い復旧・復興を願うばかりです。私たちは決して他人事ではなく、もう一度しっかり自らの事として受け止めなければなりません。

今年は私の議員活動四期目の後半に差し掛かる折り返しの年となりますが、引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

令和六年 決算特別委員会質疑より抜粋

「区民まつり開催の時期」

日本の夏（６月～ ８月）の平均気温は2023年、これまでの記録を大幅に上回り、1898年の統計開始以来最も暑い夏となったそうですが、今年の夏はさらに暑かったようです。「熱中症警戒アラート」が発表された際には、熱中症の危険度はかなり高く、原則運動は中止となっています。





QUESTION（10月1日 決算特別委員会 総括質疑より）

今後、８月の猛暑の中での開催（毎年８月第１土日）は、熱中症などの危険を考えると、開催時期の変更なども検討する時期に来ていると考えますが、区長のお考えを伺います。



猛暑の中開催された、久しぶりの馬事公苑での区民祭り（８月３日）

ANSWER

世田谷区長

環境省において、熱中症特別警戒アラートという、これは特別に警戒だという新たな運用も始まったところでありまして、区民まつりを安全に開催できるよう、今おっしゃった開催時期の変更も視野に入れた検討が必要になってきているというふうに考えております。



甲子園の高校野球も暑さ対策として、いよいよ夏の大会の開催方法について変えました。区民まつりについても来場者・参加団体の皆さんや、関係スタッフの方々の暑さ対策を考えると、見直しの時期に来ているのではないでしょうか。

「奥沢区民センターと図書館、子育て児童ひろばの今後」

これまで何度か取り上げてまいりましたが、奥沢区民センター、図書館、子育て児童広場が建物の耐震不足でそれぞれ仮運営となっています。私も地元議員として、本当に何とかしなければと思い続ける中、多くの皆さんからご意見、ご要望をいただいております。



QUESTION（10月1日 決算特別委員会 総括質疑より）

奥沢センタービルの耐震化問題が暗礁に乗り上げて約８年が経過しておりますが、区長はどのようにお考えなのか伺いたいと思います。

ANSWER

世田谷区長

昨年４月に奥沢区民センターは近隣の民間ビルに仮移転し、奥沢図書館は旧奥沢まちづくりセンターに仮事務所を設置したところですが、大変活発な区民活動、文化活動、様々な地域活動が盛んな地区であり、地元の皆様には大変申し訳なく思っているところでございます。区としては、今後の大きな地震等に備え耐震補強工事を必ず前進させるということが重要であり、耐震補強の後に、従前のように奥沢センタービルにおいて、区民の皆さん、地域の皆さんが活発に利用できるよう、公共施設の管理者として強い決意を持って取り組んでまいります。

公共施設の管理者として強い決意で取り組んでまいりますという答弁を、これまでも副区長や支所長からも何度もいただいてまいりました。今回は区長からの答弁ですから、本当に強い決意で臨んでいただきたい、そして結果を出していただきたいと思います。



仮事務所で運営中の手狭な奥沢図書館

「奥沢図書館」



7月19日、「奥沢図書館の早期再開館を求める要望書」が区長・教育長宛てに提出をされました。そして、さらに議会へも陳情書が提出され、署名活動では4000名以上の方からの署名があったそうです。



QUESTION（10月1日 決算特別委員会 総括質疑より）

地元の皆さんにとっていかにこの図書館が重要な公共施設であるかが分かると思いますが、教育長はどのようにお考えなのか、改めて伺います。

ANSWER

教育長

現在の奥沢図書館ですが、仮事務所での運営であるとはいうものの、子ども室であったり、自習のスペース、あるいは対面朗読室がない、また、本来七万点に及ぶ資料を持っていたわけなんですけれども、そういったものを開架での提供ができていないという状況で、区立図書館として求められる機能を果たし切れていないというふうに考えております。地域の御要望に少しでも応えられるよう、玉川総合支所とも連携協力をしまして、奥沢図書館のサービス拡充に向けた検討を行うとともに、地域住民の皆様への丁寧な情報提供に努めるよう、所管へ指示をしたところでございます。



地域住民への丁寧な情報提供、これはとても大切だと思いますので、ぜひ今後ともよろしくお願いしたいと思っております。
新聞・雑誌閲覧スペースなど、本当にテーブルが２つ３つあって、椅子が少しあるだけという、これが閲覧スペースと言えるのかなと思うような場所で、本当に皆さん我慢をしているわけです。

裏面へつづく

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

表面からのつづき

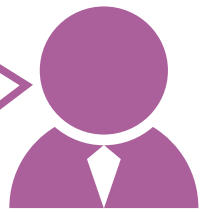
言うまでもなく、図書館は本の貸出しや読書の場だけではなく、地域住民の貴重な居場所でもあります。例えば、この夏のように猛暑が続く中、高齢者の皆さんが過ごす場所として、また子育て中の皆さんにとっては、小さなお子さんを連れて子どもたちに絵本を見せたり、さらには小中学生や高校生が宿題だとか、あるいは自習などをするにも本当に大切な公共施設であります。



QUESTION（10月1日 決算特別委員会 総括質疑より）

開架図書館がないということの重大性について、今後どう対応していくのか、具体的に伺いたいと思います。

ANSWER



教育政策・生涯学習部長

委員からご指摘をいただきましたとおり、現在の奥沢図書館仮事務所は駅からも遠く大変地域の皆様にご不便をおかけしております。奥沢図書館は今後、耐震化後の奥沢センタービルに戻ることを前提としておりますが、地域の皆様の利便性向上のため奥沢駅周辺等で利用できる施設の具体的な検討を進めてまいります。

奥沢図書館が開架図書館として、何としても再開館に向けて進んでいけるよう、全力で取り組んでまいります。



議会に出された陳情書は第４回定例会中の文教常任委員会における審査を経て12月５日の区議会本会議において、全会一致をもって『趣旨採択』されました。

「台風や水害時の避難」

近年、毎年のように繰り返される台風の襲来や豪雨は、全国各地に甚大な被害をもたらしています。大自然の恐ろしさを改めて感じるところですが、地震など、震災時の避難所と水害や台風のときの避難所が区別できている方はどのくらいいるのか、大変気になります。



QUESTION（10月4日 決算特別委員会 区民生活質疑より）

震災時は近隣の小中学校が一時的な避難所として指定されておりますが、水害時の避難所について伺います。

ANSWER



地域振興課長

水害時避難所は、台風の接近等により大雨が予想され、洪水や内水氾濫のおそれがある場合に、避難情報を発令し、開設いたします。震災時の避難所とは異なり、多摩川や中小河川の洪水に備え、主に浸水想定区域外にある区立小中学校や都立学校などを水害時避難所として指定をしております。

特に、多摩川の洪水に備えた水害時避難所は、高齢者など避難に時間がかかる方に対して早めに避難を受け入れられるよう、２段階に分けて開設いたします。台風接近・通過の前日まで、おおむね24時間前までに、水害時避難所（第１次）を開設し、続いて、台風接近・通過当日に水害時避難所（第２次）を開設することとしております。

この頃の天気予報は、台風については、ある程度事前に予測できるようになりましたが、局地的な豪雨など大雨は突然降ることが多く、予測が難しいようです。



QUESTION（10月4日 決算特別委員会 区民生活質疑より）

台風ではなく大雨の時の避難所開設について伺います。

ANSWER



地域振興課長

近年頻発する局地的な豪雨、数時間にわたり同じ地域に強い降雨をもたらす線状降水帯などによる豪雨災害は全国各地で発生しております。こうした豪雨災害に対して、大雨により河川の増水、氾濫が発生するおそれがあるときには、気象庁と国や都が共同し、洪水予報等の防災情報が発表されます。区では、こうした防災情報のほか、気象情報や雨量、河川の水位等、様々な状況を勘案し、状況に合わせて必要な避難所を開設し、避難情報を発令しております。

また、区では今年度から、夜間や明け方に避難発令を行う可能性が高い場合は、夕刻時点の明るい段階で避難を呼びかけることができるよう避難情報判断基準を改正するなど、より安全に避難行動を取っていただくための取り組みに努めております。

確かに、雨の降り方は以前とは違い、局所的に短時間で一気に降ることが多くなっています。区内でも、例えば烏山や区役所、そして奥沢辺りでは大分降り方が違うことが結構あります。



QUESTION（10月4日 決算特別委員会 区民生活質疑より）

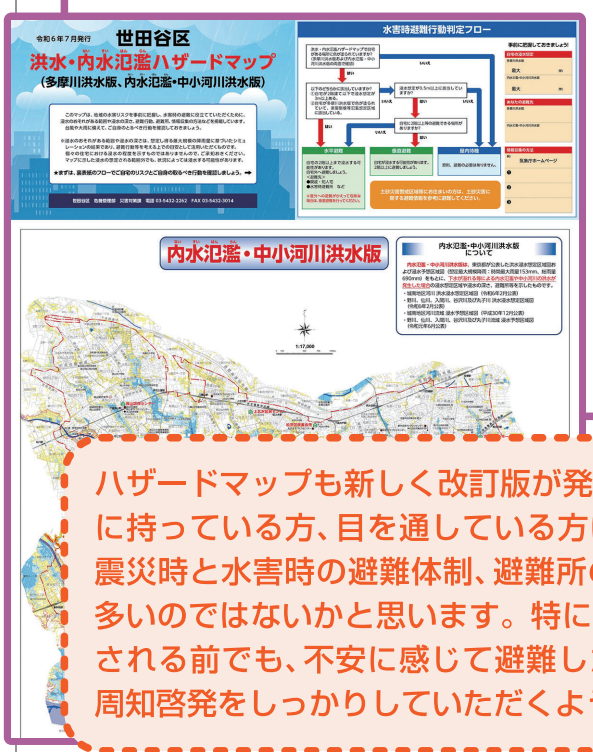
多摩川のような大きな河川だけではなく、中小の河川もあふれることが予想されますが、その場合の避難行動について伺います。

ANSWER



地域振興課長

区では、こうした地域の水害リスクを事前に把握し、水害時の避難に役立てていただくため、**世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ**を作成しております。ハザードマップには、浸水のおそれがある範囲や浸水の深さ、避難行動、避難所、情報収集の方法等のほか、ご自宅のリスクとご自身の取るべき行動を確認するための水害時避難行動判定フローを掲載し、区民への周知啓発を図っております。



ハザードマップも新しく改訂版が発行されていますが、まだまだ実際に持っている方、目を通している方はそれほど多くないようですし、震災時と水害時の避難体制、避難所の違いなど、案外知らない区民も多いのではないかと思います。特に高齢者世帯など、避難情報が発令される前でも、不安に感じて避難したい区民もいると思いますので、周知啓発をしっかりしていただくよう要望します。

ハザードマップは近くのまちづくりセンターなどで配布中！

「町会・自治会への区の支援」



QUESTION（10月4日 決算特別委員会 区民生活質疑より）

各地区の町会・自治会から、役員の成り手がいない、負担ばかり増えてしまっているなど、よく聞きますが、区として何か支援できないか伺います。

ANSWER



市民活動推進課長

昨年度に全町会・自治会に実施したアンケートにおきまして、役員の高齢化や新たな成り手不足による役員の固定化で以前のような活動が思うようにいかない、あるいは役員の方々の負担になっているという町会・自治会が５割以上ありました。**こうした課題に対応していくには、現在の体制に新たな担い手を取り入れながら、次の世代に円滑に引き継いでいくように取り組むことが重要になります。**

今年度、町会総連合会が実施する研修会では、次の世代を取り込むことや、子どもまつりなどを若い世代向けに催すことは、地域のコミュニティーの形成とその後の発展に決して無駄ではないことを伝えるなど、町会の皆様の活動を後押しする内容で実施するよう提案してまいります。引き続き町会・自治会への支援と負担軽減につながり、持続可能な運営体制となるよう、町会総連合会とともに、若い世代や新しい住民を取り込む方策などについて、様々な観点で工夫しながら支援してまいります。

新型コロナの５類移行後、地域のイベントが再開されると、盆踊りや餅つき大会などの催しには大変多くの親子連れがあり、地域には沢山の若い人材がいることを確かに感じます。地域の若い世代や住民に町会・自治会の窮状を知ってもらい、主体的に協力してもらうことはとても大切なことだと思います。若い世代や新しい住民を取り込む方策と答弁がありましたが、ぜひ打ち出し、町会や自治会を支援していただきたいと思います。

